

令和2年度社会医学実習テーマ

1 小児環境保健の世界の取組み

子どもの成長や発達に影響を及ぼす環境要因を明らかにする目的で、世界では多くのコホート調査が行なわれている。小児環境保健の世界の取組みについて概観する。

2 働き方改革と今後の産業保健

最近の労働衛生の動向、特に働き方改革を中心として今後の産業保健のあり方を考える。

3 肥満と生活習慣や環境に関する文献的レビュー

肥満(BMI \geq 25)の割合は日本人男性でおよそ3割、女性でおよそ2割でありここ10年は有意な増減は認められていない。原因としては遺伝的素因以外に、食生活、運動不足、ストレスなどが関与していると言われている。本実習では、肥満と生活習慣や環境に関して今までにどのような報告がされてきたか文献的レビューを行う。

4 都道府県別の肥満と生活習慣や環境との関連について

都道府県別に、BMI・肥満の割合と生活習慣や環境との関連性について、国民健康・栄養調査(厚生労働省)、社会生活基本調査(総務省)、家計調査(総務省)などのデータを利用して地域相関研究(生態学的研究)で検証する。

5 学生を対象とした骨粗鬆症の知識調査

骨粗鬆症の推定患者数は1300万人と言われており、高齢化が進む日本では予防施策が必要な課題である。しかし、青年期からの予防対策は十分とは言えない。そこで、学生を対象にアンケートを実施し、骨粗鬆症の予防に関する知識が獲得されているかを評価し、関連する背景因子が何かを検証する。

6 小児期から青年期の骨折発生率の検討

これまで、小児期から青年期にかけて2割以上の者が骨折を経験するという報告があるが、疫学データは十分に示されていない。学生を対象としたアンケートを実施し、小児期から青年期までの骨折発生率の評価と骨折後の機能的予後について検討する。

7 新型コロナウイルス感染症の将来予測

新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威を振るっている。今後の保健医療のあり方やその規模を考える上で、感染者数や死亡者数の将来予測は有用である。実習では実際のデータを用いて検討し、考察する。

8. 新型コロナウイルス感染症と予防接種

新型コロナウイルス感染症の発生率や死亡率には、国家間の差がある。その背景の 1 つとして、BCG 接種が義務の国と任意の国の死亡率の差に注目が集まっている。実習では実際のデータを用いて検討し、考察する。

9. 共生社会を目指した引きこもり課題の実態調査

2018 年の内閣府の調査にて、40 才以上 65 歳未満のひきこもりが 61.3 万人という結果となった。15 歳以上の若者のひきこもりが 55 万人という推計を踏まえると、ひきこもりは若者世代の問題だけでなく、生産人口のすべてに渡る社会課題であることが分かる。今回、実態が見えにくい引きこもり、またはひきこもり家族の課題を自治体(市町村)を訪問し明らかにする。

10 自殺の地域格差の要因分析

2019 年自殺対策基本法の改正を受け、各自治体では地域単位での自殺対策計画が立案された。一方、地域単位での独自の対策に資する資料は、国が示した人口規模単位、世代別単位のプロフィールが基盤となっており、地域文化や住民の特性に沿った対策は実行が難しい。今回、都道府県の自殺の格差の決定要因を抽出し、自殺における地域格差縮小のための説明要因を検討する。

11. 保健所医師の保健医療行政に関する学習と実習

病院勤務医と異なり、保健所医師は地域社会の健康問題に対処することを使命としている。業務内容は感染症(新型コロナを含む)や食中毒への対応の他、地域住民の健康づくり、生活習慣病予防、子育て支援、児童虐待への対応など健康や福祉に関わる幅広い項目に及ぶ。今回の実習では班内での対話的な学習と保健所での実習を通し、保健医療行政の基本や課題について学ぶ。

必要図書:安武繁, 保健所研修ノート第 4 版 医歯薬出版株式会社

12. 健診ビッグデータを用いた労働環境と生活習慣病の分析

生活習慣病の予防、該当患者数の減少は公衆衛生上の重要課題である。個人の健康は個人の遺伝や生活習慣だけでなく、個人が属する集団からも影響を受けることが知られている。今回の実習では県内の 1 病院の健診データ(約 2 万人)を用い、職種や企業規模といった労働環境と生活習慣病の関係についての分析を行う。(エクセルを主に使用)